

就労支援サービス

専門教育科目 / 1 単位 / T 授業

担当教員 高橋 滋

■使用テキスト 社会福祉士養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉士養成講座第18巻 就労支援サービス 第4版』中央法規出版 2016

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

これまで就労支援は、障害者雇用や生活保護など限られた対象者への課題とされてきた。しかし現代の生きにくさは若年層におけるニートやフリーター、ホームレスなど不就労、ワーキングプアといわれる不安定就労等へのセーフティネットとしての機能が強調されるようになって来たため、支援の対象者が急速に拡大してきている。この教科では、社会、経済が激動している中で、それに対応して大きく変化している労働関係の内容を学習し、相談援助活動に必要な就労についての法制度・行政機関・関係団体・専門職員などについて理解を深め、就労支援を行う社会福祉士の役割について考える。

到達目標

- 1) 働くことの意味を経済的側面と社会参加の側面から理解する。
- 2) 昨今の労働環境と就労支援サービスの対象を理解する。
- 3) 労働に関する法制度、行政機関の位置づけ、専門職員の役割を理解する。
- 4) 障害を持つ人への就労支援施策を理解する。
- 5) 生活保護制度を中心に福祉施策の中での就労支援の強化施策を理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

序章 働くことの意味と社会福祉士の役割

この章のポイント

この章では、働くことの意味についての個人と社会の関係を経済的安定の側面と社会参加の側面からとらえ、そこから生じる労働問題をわが国の状況や国連のとらえ方を通して確認する。また専門職としての社会福祉士が就労支援にどのように取り組んでいくかについて学ぶ。□

第1章 雇用・就労の動向と施策

この章のポイント

第1節では、労働人口の減少や産業別、職業別就業者の構成割合の変化、また、雇用形態など労働環境の変化を学び、これからの家庭生活と職場生活の両立を目指す、ワーク・ライフ・バランスについて考える。第2節では、労働に関する法律と制度について理解し、就労支援のツールとして活用できるようにする。

第2章 障害者と就労支援

この章のポイント

第1節では、障害者の就労についての歴史を踏まえ、その就労の現状、第2節では、福祉施策としての就労支援、第3節では、雇用施策における就労支援のサービス内容を学ぶ。第4節では、障害者の就労支援に当たる専門職の状況、第5節では、民間企業の取り組み、第6節では、諸外国の取り組みについて学ぶ。□

第3章 低所得者と就労支援

この章のポイント

生活保護受給者に対する自立助長から自立支援への流れを理解し、母子世帯に対する就労支援の必要性についても学習する。また、生活保護受給者や母子世帯の就労の現状と支援制度、福祉事務所などの組織・団体の役割及び専門職員の状況について学び、今後の展望について考える。

第4章 専門職の役割と実際

この章のポイント

就労支援を担う人材は多様であり、福祉施策と雇用施策そして低所得者等の就労支援に関する専門職の役割と実際について学ぶ。

第5章 就労支援の連携と実際

この章のポイント

第1節では、就労支援の一連の手続きを学び、第2節では、それを効果的に実践するための多様な人材や組織・機関のネットワークの必要性を明らかにする。

終章 さまざまな働き方の支援

この章のポイント

就労支援の対象者が、広く、深く拡大している。社会福祉の視座から「就労支援サービス」をとらえ直す。